

教育は SDGs 達成の土台 企画展「HOPE」開催

**世界の初等教育の就学率は約 90%に達するも、読み書き・計算が
できない子ども・若者が 6.1 億人。今、世界が直面する教育の課題とは？**

JICAは、日本が有する強みや経験を活かし、世界約100か国で教育分野の協力を行っています。その一端をご紹介する企画展を「なごや地球ひろば」で開催します。

ぜひこの機会にご来館いただき、取材・情報掲載のほどお願いいたします。

【取材可能期間：開催期間中(5/18～9/18)】

展示と連動したイベントも開催します！

体験型展示とリアルな写真・映像で世界を知る

教育は、すべての人が等しく受けることができます。これは基本的人権の一つであり、この権利により、一人ひとりが自分の才能と能力を十分に伸ばし、人間らしい生き方をし、自分の手で未来を切り開くことを可能にします。また、国が成長・発展していくために欠かせないものであるとともに、他者や異文化に対する理解と信頼を育むことにつながるため、平和を支える礎にもなります。

世界の初等教育の就学率はおよそ 90%に到達し大幅に改善されましたが、学校に通っているものの、基本的な読み書きや算数ができない子どもや若者が 6.1 億人以上います。また、貧困、ジェンダー、障害、民族、紛争、災害などの理由により、教育の機会を得られない子どもたちがいます。

JICA の協力が、大きな自信と未来につながる

人口 2 億 2,000 万人を有し、その 6 割が 30 歳以下という若い大国パキスタン。しかし、教員や学校の数が足りていなかったり、経済的な理由から学校を辞めざるを得なかったりと、教育が行き届かず、その結果学校に行っていない子どもが 2,280 万人いるという課題を抱えています。また、2022 年の夏に発生した洪水により国土の 1/3 が被害を受け、約 350 万人の子どもたちの生活に影響が出ています。

JICA はこの国で 15 年に渡り、年齢に関係なくだれでも通うことができ、短時間で必要な学力が身につく学びの場を提供するノンフォーマル教育の協力を行っています。様々な理由で学校に通えない・通えなかった人たちが学ぶ機会を得ることで、進学や就職の可能性が広がります。



【写真】

リキシヤ(三輪バイク)を修理する仕事に就き学校へ一度も行ったことがなかった12歳の少年。

現在は早朝学習プログラムに参加。朝7時から勉強し10時から仕事へ向かう。勉強と仕事を両立しながら、一度は失った学びの機会を取り戻して、学び続けることが可能になった。

写真提供:田中 博崇

東海地域から世界へ

本企画展では、開発途上国の子どもたちに質の高い教育を提供するため、JICAが民間企業や大学、NGOなどと連携しながら実施する協力や、JICA海外協力隊の活動をご紹介します。世界の現状を知ることから、国際協力の一步を踏み出しましょう。



【写真】左:学校法人日本福祉大学 国際福祉開発学部と連携しICT活用による児童の主体的学びを育む(カンボジア)

中央:ヤマハ株式会社と連携し音楽・器楽教育を通して児童の非認知能力を育む(エジプト)

右:JICA海外協力隊の経験を活かし外国につながる生徒が多数在籍する学校で活躍(岐阜県可児市)

【展示概要】

展示期間:2023年5月18日(木)~2023年9月18日(月)入場無料 開館時間:10時~18時

休館日:月曜日(月曜日が祝日の場合は開館、翌平日が休館)

施設ウェブサイト:<https://www.jica.go.jp/nagoya-hiroba/index.html>

※展示期間中に数回、運動イベントも行います。初回は6月11日(日)午後、児童労働に関するイベントです。運動イベントや、学校等による展示見学と合わせた取材のご希望あればお知らせください。講師・学校等と調整を試みます。

【本件に関する問い合わせ先】

JICA 中部 市民参加協力課 石沢・後藤

TEL:052-533-0220 (対応可能な時間:月—金 9時30分~17時30分) e-mail:cbictpp@jica.go.jp